

講座を通じて学んだこと

今後の課題

報告 草間壽子

「伝統野菜」とは何か

- ・「伝統野菜」が生まれた背景
- ・定義の比較
- ・曖昧さがもつ力

今後の課題



余呉の山蕪

- ・伝統野菜の存続の可能性

講座を通じて学んだこと

伝統野菜とは何か

- ・「伝統野菜」が生まれた背景
- ・各地の「伝統野菜」の定義を比較する
- ・定義の曖昧さがもつ力



「伝統野菜」登場の背景-戦後の野菜事情

第二次大戦中

1941年 農業生産統制令

農業生産は政府の指定する米・ムギなど40余種の作物の栽培に限られた。ほとんどの生産物が政府の決める値段で強制的に買い取られた。

品種の特性を無視した栽培と採種が強行され、それまでに築かれてきた地方品種は壊滅状態に近くなつた。

戦後復興

1949年 農業生産統制令撤廃

混乱の極に達していた品種の改良・原種改良が精力的に進められ、1950年代初頭になってほぼ戦前の水準に復帰することができた。

高度経済成長へ

1961年 農業基本法

「三ちゃん農業」が増加。高度経済成長をめざす工業化社会と農業、人口の都市集中と農村、という問題があらわになっていく。

野菜は、だれでもどこでも作れる栽培の容易さ、多収、味にクセがなく万人向きであることが必要になった。品種は、急速に画一化、単純化していった。



聖護院だいこん

1970年代中頃からの新しい動き

1974 京都 京都府が伝統野菜の原種保存を開始

「伝統野菜」という
コトバはこのころ登場？

1976 農水省 芦澤正和氏による地方野菜の実態調査始まる

山形 青葉高著『北国の野菜風土誌』発刊

芦澤氏による地方野菜の
実態調査が本のベース

1977 京都 京都府が伝統野菜の種子分譲を開始



1986 大阪 大阪府の野菜遺伝子資源調査および種子の保管・増殖

1987 京都 「京の伝統野菜」定義

1991 石川 「加賀野菜懇話会」設立

1997 石川 金沢市農産物ブランド協会「加賀野菜」認定開始

バブル期、稀少な食べ
ものを求める気分と合致

1997 東京 伝統野菜ゆかりの地の神社境内に説明板設置

2003 山形 「山形在来作物研究会」発足

直売所盛況。市場に出まわらない地
方野菜に出合う場になる

大阪 「なにわ伝統野菜認証制度」開始

2011年、映画
「よみがえりのレシピ」公開

2013年、和食がユネスコ
無形文化遺産に登録

「栽培の歴史」に関する定義の比較



京の伝統野菜 明治以前から



加賀野菜 1945年より前から



なにわ野菜 おおむね100年前から



江戸時代から伝わる
江戸野菜
明治から1955年頃まで
⇒江戸野菜
⇒東京野菜

多様な「伝統野菜」に共通すること

その土地で、長い間いのちをつないできた

- 長い間をかけてその土地に適応してきた固定種

地域の「生きた文化財」

- 「生きた文化財」は山形大学農学部教授青葉高氏の言葉
- その土地に適応していく長い時間のなかで、地域の風土や人々の嗜好、利用の文化などに関する膨大な情報が蓄積されている
- 食べものとしての存在を超えた物語がある



折戸なす



下仁田ねぎ

定義のあいまいさがもつ力

宗麟南瓜



- ・「伝統」というと、昔から続く決まったかたちがあり、動かないもののようにとらえられるが、定義があいまいなことによって、時代や状況に応じて変化する可能性をもつ。この変化の可能性は、伝統を継続していくという面では強靭さにつながる。
- ・定義があいまいなので、参入しやすく、各地で「伝統野菜」の掘りおこしが始まり、これまで価値を認められなかった品目・品種が注目されるようになった。
- ・「伝統野菜」を、地域の振興、再生の資源として、農業生産者だけではなく、加工業者、レストランほか、さまざまな関係者が参入できる。

今後の課題

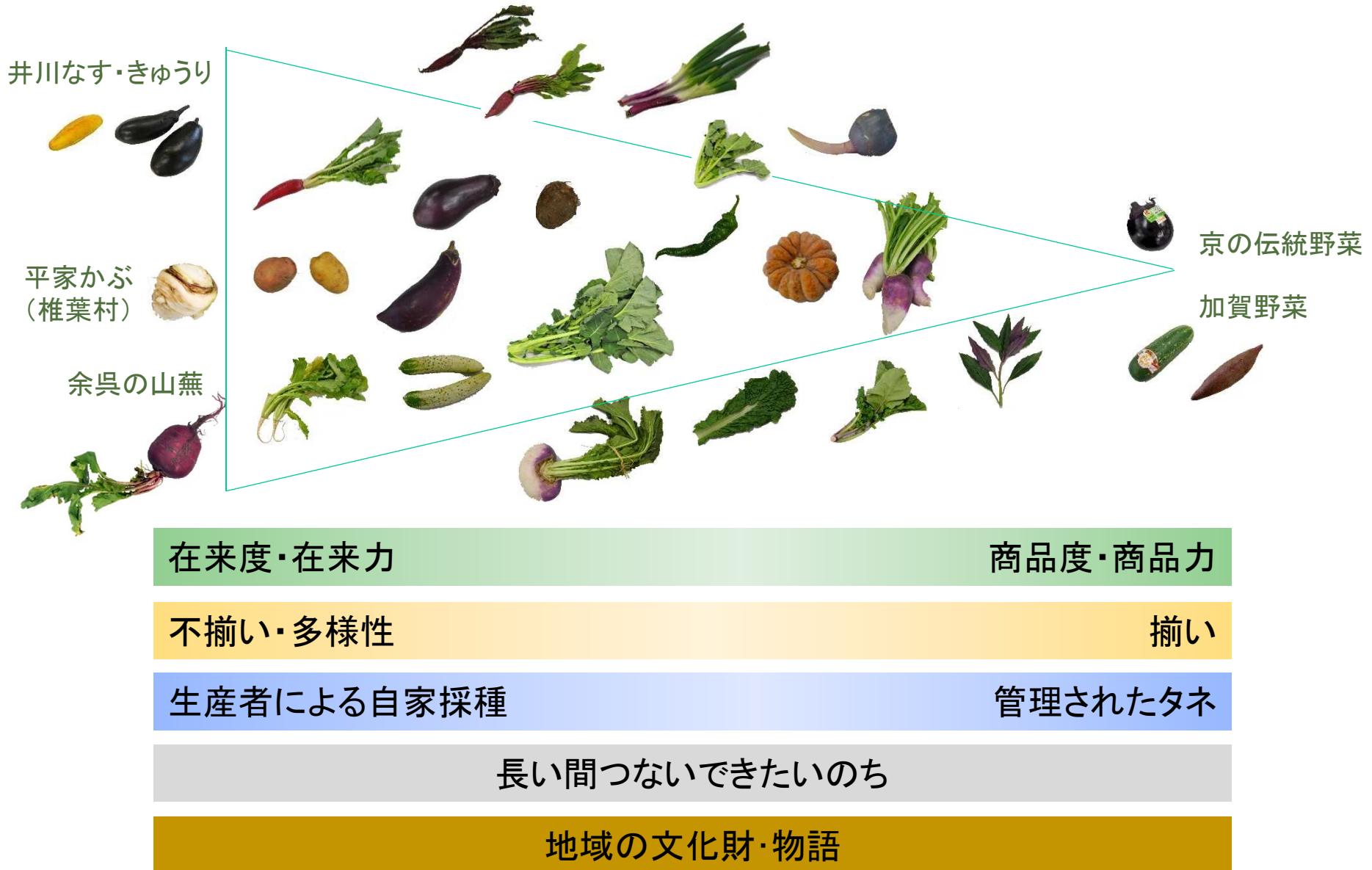
残し、伝えていくには



仙台曲がりねぎ

- ・ 伝統野菜は多種多様⇒市場性による整理
- ・ 伝えていく方法は野菜と地域によって異なる
- ・ 残し、伝えていくひと⇒情報発信のたいせつさ

市場性で整理してみると



だれが残し、伝えていくか。

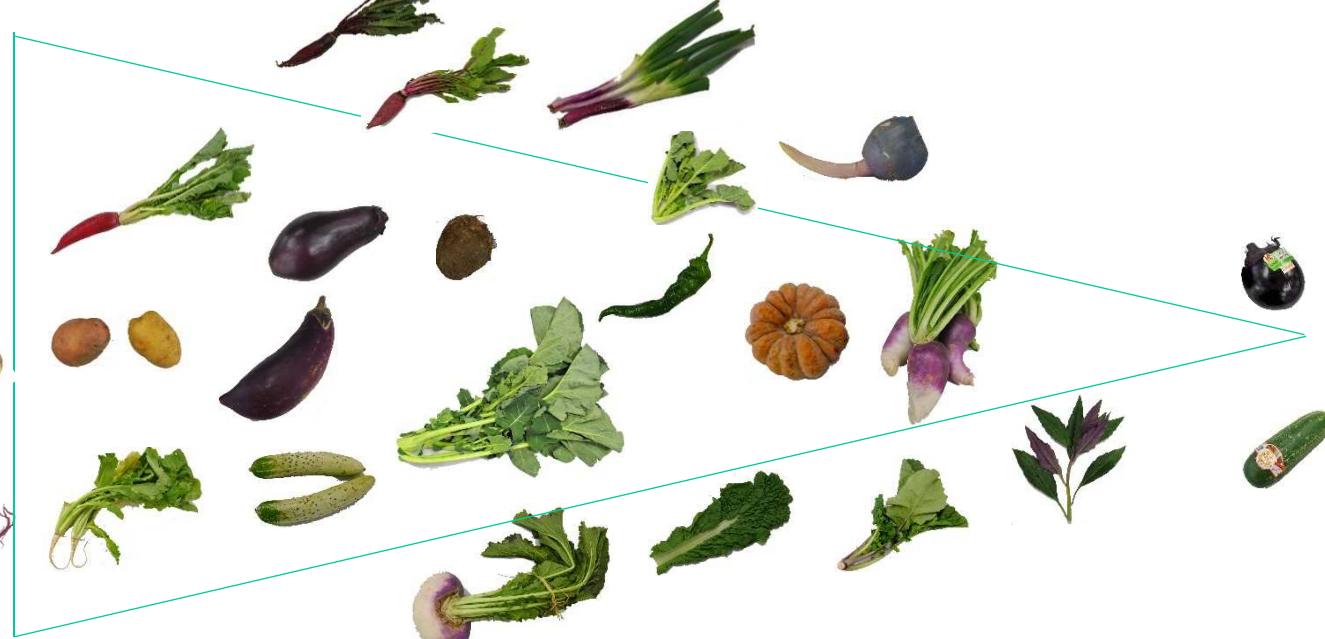
井川なす・きゅうり



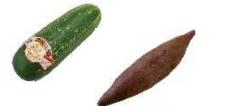
平家かぶ
(椎葉村)



余呉の山蕪



京の伝統野菜
加賀野菜



篤農家・自治体・JA

学校

市民・家庭菜園

学び・情報発信

野菜の勉強は一生続きます。



糸巻きだいこん

ご静聴ありがとうございました。